

この秋、おぢばでひのきしんを

9～11月「秋のひのきしんおぢばがえり」

大教会から、今年の9月1日から11月30日までを実施期間として、「秋のひのきしんおぢばがえり」の実施が打ち出された。各教会や家庭で親里に帰り、ひのきしんを通じて信仰の喜びを味わわせていただく。



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部



ひのきしんは
いつでもどこでも
できるけれど
今年はおぢばに帰って
してみませんか。

このたび提唱された「秋のひのきしんおぢばがえり」は、大教会の活動目標である「今日を陽気に。」の掛け声のもと、本愛につながる教会長、ようぼく、信者が、ぢば一条の信仰を育みつつ、おぢば帰りを実施し、教会本部神殿周辺でひのきしんを通じて、信仰



秋のひのきしんおぢばがえり 相談窓口について

7月及び8月の大教会入社祭、月次祭の祭典修了後、神殿1階、たすけ推進部にて相談窓口が設けられる。時間は各日とも午後1時から2時まで。

また以下のメールアドレスから、質問や相談を随時受け付けている。

Email mail@hon-ai.org



年間活動目標
創立110周年に向かって
今日を陽気に。
おつとめ おたすけ ひのきしん

の喜びを分かち合うことを目的としている。
ひのきしん内容は主に、回廊拭き、神殿階下トイレ清掃、神殿周辺での除草や清掃、落ち葉拾い等。
■事前に計画書の提出を
「ひのきしんおぢばがえり」は、教会単位に限らず、家

族単位など、さまざまな形態で実施していただけるが、事前に計画書の提出が求められている。また、実施後には報告書の提出を。計画書の締め切りは8月1日だが、それ以降に計画を立てた場合には、その都度計画書を提出し、事前の計画無しに実施した場合でも、報告書の提出が求められている。特に10名以上の団体で実施する場合には、必ず相談窓口でひのきしん内容の確認をしていただきたい。

7月のこよみ

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
こはる会例会	15日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
女子青年例会	17日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
ほんあいOKEIKO	17日	午前10時
婦人会例会	20日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
夏休みこどもひのきしん (於・教会本部)	26日～8月28日まで	



少年会本部副委員長 錦江大教会長 寺門幸治先生

少年会の「縦の伝道講習会」は、「子供に信仰の喜びを伝えよう」というテーマでつとめさせていたいただいております。縦の伝道イコール少年会というイメージがついている気がします

苦心くださっていることと存じます。

が、例えば90歳の母親が70歳の娘に信仰を伝えるのもまた、立派な縦の伝道です。そう考えると、少年会というのは、大きな縦の伝道の一部分を担わせていただいている、そう考える方が自然だと思えます。

しかし考えてみれば、この動きにくい今という時は、また何かの手が打てる時でもあります。何が正解かはわかりません。しかし何かしらの手を打つことができるのは、今という時だと思えます。

■今できることを

その時、ある教会では、すぐに皆でマスクを作ったんだそうです。そして、それを信者さんところに手紙を添えて配られた。

拡大とその対応に、大変ご

これは、打つべき時に手を打てた、そういう姿の一つではないかと思えます。では、今のこうした状況の中で、私たちは何をしなければいいのでしょうか。昨年を引き続きまして、今年も子どもおぢばがえりは中止です。しかし教祖は今年も、子供たちがおぢばに帰ってくることを楽しみにしてください。教祖に何とかお喜びいただきたい、そう思うのです。

今年で、どれだけ多くの子供たちが、子どもおぢばがえりで成人させてもらってきたでしょうか。子供ばかりでなく、子どもおぢばがえりに携わる学生や大人たちも、どれだけ信仰の喜びを味わわせてもらったかわかりません。

さらに、この夏、おぢばに帰ってこられる方々に向けて「子どもひのきしんセクター」を7月の26日から8月の28日までの期間、開設いたします。また、泉水プール前広場や、天理参考館周辺を使って、お道の話も聞いてもらったり、また帰ってきた子供に楽しんでもらえるような場も用意いたしますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

■教祖のひながたを台に
親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て、共に楽しみたいという思いで、人間をお創りくださいました。陽気ぐらし世界を実現するまでには、まだまだ横への布教も、縦への伝道も必要なのです。
どんな中でも勇んで通れる道、喜んで通れる道があります。お残しくださいました教祖のひながたの道は、横への布教もさることながら、家族に信仰の喜びを伝えるところから始めてくださっているようにも感じられるのです。
縦の伝道というのは、子や孫をはじめ、後に続く者に、先に道を歩んでいる者が、教祖のひながたを台として、その心を伝えること。そして、わが身の実践を次の世代に映していくことだと思えます。

■代を重ねた信仰の喜び

会に住まわせていただいています。

そして縦の伝道は、代を重ねた信仰の喜びへとつながっていきます。代を重ねた信仰の喜びというのは、信仰ならではの喜びの内の一つです。例えば私は信仰5代目になります。我が家の信仰初代は女性です。入信前ですが、初代は離婚2回、子供も産んでおりますけれども、育てきれずに自分の子供を捨てている。それが我が家の信仰の初代であります。

決して望んでそういう状況になったではありませんが、通らなければならぬ。なつてきてしまう。そんなわが身わが家のいんねんを切り替えられるのは、この道しかないという思いで入信してくれた。

教祖のひながたの道です。道中、苦しいとき、投げ出したくなるようなときもある。けれど、どんな中も先に親が通って、心一つで、どんな中でも勇んで通れる道があると、お残しくださいました。この教祖のひながたがあつたから、この道は続いてきたのだと思います。

■喜びの種を蒔く

本愛大教会では創立110周年へ向けて「今日を陽気に。」と活動を進めておられると伺いました。少年会でも「日々に陽気ぐらしを

今日、こうしてこの場に、道をつないで通られている皆様がいるおかげで、その先の道を歩む者が味わえる喜びができていく。末代の者が喜べる喜びの種を、皆様で作ってくださいている。信仰は、一人ひとりの喜びだけに止まらず、末代の者の喜びの種になるのです。

実践し、その喜びを子供たちに伝えよう」と活動方針を定めています。しかし日々の陽気ぐらしというのが難しい。何をどうしたら陽気ぐらしになるのでしょうか。教えは素晴らしい。教祖のお通りくださった道も素晴らしい。教会に来た時は

素晴らしいと感じることができると、おちばに帰れば、仲間とも語り合うことができる。しかし地元に戻ると、自分の生活に戻ると、距離ができてしまう。

それは子供だけではなく、子供と一緒に大人も使っているようにという思いで、作らせていただきました。太字のところを子供に読んでもらって、それを大人が説明する時に使えるように、文章を添えています。

いずれにしても、種は蒔かなければ生えないのです。喜びも、その種を蒔くから与わってくるのだと思います。

「むりなねがひはしてくれな。ひとすぢごゝろになりてこい」と仰せいただきました。「無理」というのは、種がないということ。種も蒔かずに喜びの実りだけを願っても、それこそ無理なのです。

前年が不作で籾種も残せなくても、農家なら旬になればどこからか借りてきてでも種を蒔くんです。今は苦しい、辛い、時間も無い。しかし、種を蒔いておいてよかつたなと思う日が必ず来ます。それが道の喜びなのです。

先人たちがつないでくださった陽気ぐらしの教えを、末代続いてつないでいくという決意と共に、育成者として、道に縁ある子供たちを、わが子同様に立派なようべくへ育てていくというのを、共々に心に定めます。(文責 広報部)

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



以前、お道のある先生に、じゃんけんの「勝ち方」を教えてくださいました。

それは「パー・グー・チョキ」の順番で出すことだそう、これはなぜかと言うと、「パー」は「出す」こと、「グー」は「手に入る」こと、「チョキ」は「分ける」ことを表している、その先生は「人生は手に入れることよりも出すことのほうが先。出すから身につく。そして、身についたものは分ける。これが人生がうまくいく『勝ち方』だから」ということでした。

実はこの順番は数学的に考えても、最も勝率の高い方法なのだそうです。



自然の摂理でも、水に浮かんだものを引き寄せようと思ったら水をかき寄せるとはならず、水をかき出すようにすると、物は自然と自分の方へ寄ってきます。

幸せは自分の心から

何か一つの目標に向かって、「いつか〇〇になりたい」「手に入れてみたい」と心に決めて頑張ることは人がより良く生きる上でとても大切なことです。けれども分不相応に「一つでも多く」「周りを蹴落として、天」という心になっては、天

の理にそむくことになるの
だろうと感じます。

安藤正吉初代会長様は、

みかぐらうたの「やしきハ
かみのでんぢやで まいた
るたねハみなはへる」との
お歌について、「これから先
は金を握った場合は種と思
わなくてはならない。又今
迄金を握った時には、金と
思うから皆食つて仕舞つた
のです。種だと思つたら、種
を皆食つて仕舞つたことに
なる。種と思わないからで
す。あの時には随分と神様
から種を頂戴したんだけれ
ども、それを蒔かずに、皆
食つて仕舞つた。(中略)
今日からは気を付けて、種
蒔きの方に掛かりましょう。
種を食わない様にしましょ
う(中略) こういう風に考
えて行く人が、段々幸せの
許に入つて行く理由になる
のです(『用木の道』と書
いておられます。

「パー」の出す、「チョ
キ」の分けるという行いを、

親神様は「種を蒔く」とし
て受け取ってくださいます。

周囲の人に与えたり、家族
と分かち合ったり、あるい
は親神様へご御返しさせて
いただくとするその「誠
の心」を、神様は「種」に
してくださる。「ですから天
から幸せが来るだろうとか
言う人がありますけれども、
そんなことは迷信なのです。
(中略) 天からでなく、自
分の心から出て来る」(同
書)という言葉には重みが
あるように感じます。

ところで先日、「当選おめ
でとごぞいます」と書い
たメールが届きました。怪
しい詐欺メールかと思つた
のですが、日本アイスクリ
ーム協会という団体からで
以前自分が何気なく応募し
たものでした。

ちょうど今日、たくさん
アイスが届いたので、私も
早速皆さんと分け合つて頂
戴したいと思います。

(お話会での講話より)

連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、
より理解が深まります！



チャンネル登録



教理随想

言わん言えんの理を探る



おふでききに、いま、でになら、今までは枝先の花や実の手入れしか知らなかったのが、教祖によって、根に栄養を施して元から立て直していく方法を教えていただいた。つまり一時的なたすかりから、根本的な救済、末代までのたすかりを教えられてるのが天理教の教えであります。

調されているのです。一本の植物にたとえるなら、今までは枝先の花や実の手入れしか知らなかったのが、教祖によって、根に栄養を施して元から立て直していく方法を教えていただいた。つまり一時的なたすかりから、根本的な救済、末代までのたすかりを教えられてるのが天理教の教えであります。

にはつながっていかないのではありません。それを象徴する話があります。日本では昭和五十六年から今日まで、「全国豊かな海づくり大会」が毎年開催されています。これは天皇皇后両陛下が臨席される国民的行事で、各県が持ち回りで行っています。今から八年前には奈良県で開催され、当時の両陛下が天理市に立ち寄られる一幕もありました。しかし考えてみると奈良県には海がありません。その奈良県で「海づくり大会」とは不思議な感じがしましたが、大会の標語を知って合点がいきま

注ぎ込む川と、さらに遡って川の水の源泉である山と森を豊かにすることが絶対必要であるという理念に基づいて開催されたのです。元を立て替えればその先にある海は豊かになり、生態系も維持される。これが天然自然の道理であることを海づくり大会は示してくれているのです。

「我が身たすかりたい」と考えていた心を、これからは「人にたすかつてもらいたい」という人だすけ優先の心に切り換えることが正しい軌道修正であり、元を立て替えるための大切な要点であります。

保九)年十月までは、救済といえれば病気を治すことであり、もつれた事情を解決することでした。これは今でも一般常識からすれば同じかもしれません。しかし、教祖がお教えくださったのは、「いままでにないたすけ」であり、それは「もと」を知ることから始まると強

の過程では、病気の治療に当たるとも、また専門家の助言を受けて事情解決の方策を探ることも必要で、それを軽視してはならないでしょう。しかし病気や事情をきつかけにして元を立て直す努力をしなければ、末代までの本当のたすかり

した。「ゆたかなる森が育む川と海」——。つまり海を豊かにするには、海に

合でも同じです。しかし、私たちの周囲に現れてくる病気や事情の場合になると、案外、表面的な修復だけで済ましてしまうことが多いのではないのでしょうか。

親神様が陽気ぐらしを見て共に楽しむために人間を創られたという元初まりの真実を知り、人間創造の元であるおぢへへ帰ることあります。一旦は枯れかけた植物でも、根に水と養分を与えて手入れを施せば、幹や花は生きる力を取り戻します。世界で様々な困難に行き詰まっている人々に元を立て直す方法を教え、「よろづたすけ」の源であるおぢへへ導いて、根本からたすかる道を共に歩んでいきましよう。それが夏から秋にかけての、ようぼくの大切な使命であります。

【第 91 回】

身上事情の元を立て替え 末代たすかる道を歩もう

みかぐらうたに「病の元は心から」と教えられるように、「元」とは、一つには人間の心であります。すなわち、心を親神様の思召に添うように軌道修正することが、運命を切り換えるには欠かせない重要な条件

さらにもう一つの元は、親神様が陽気ぐらしを見て共に楽しむために人間を創られたという元初まりの真実を知り、人間創造の元であるおぢへへ帰ることあります。一旦は枯れかけた植物でも、根に水と養分を与えて手入れを施せば、幹や花は生きる力を取り戻します。世界で様々な困難に行き詰まっている人々に元を立て直す方法を教え、「よろづたすけ」の源であるおぢへへ導いて、根本からたすかる道を共に歩んでいきましよう。それが夏から秋にかけての、ようぼくの大切な使命であります。

参院議員・今井絵理子氏
本愛大教会に来訪

5月28日、参議院議員で元SPEDの今井絵理子氏(写真右)が本愛大教会に来訪。大



教会長が神殿を案内し、教理を説明したほか、おさづけを取り次いだ。

5月のおさづけの理拝戴者
本穂 黒川 菜緒
以上1名

5月の初席者

本心(本心徳) 永田 光希
本大王(本愛南) 末次 美怜
以上2名

本名分教会三代会長

出口孝子之霊の五十年祭

本名分教会では5月29日

午前10時30分より、三代会

長・出口孝子之霊の五十年

祭が同分教会で行われた。

本煥分教会二代会長

種田きんの霊の五十年祭

同分教会四代会長

種田正敏之霊の十年祭

賓を迎え、神殿落成奉告祭が賑やかに執り行われた。

神殿落成奉告祭

本心通分教会(本心部属・棧敷ひろ子会長)では、5月28日午後6時より、大教会長祭主のもと御目標様鎮座祭を厳かに執行。

翌29日午前10時半より大教会長をはじめ、上級本心分教会長ら多数の来



本心通分教会

本煥分教会では5月29日午前11時より、二代会長・

種田きんの霊の五十年祭、

並びに四代会長・種田正敏

之霊の十年祭が、世話人・

大倉八郎役員を祭主として

同分教会で行われた。

本理愛分教会初代会長

門田二三四之霊の三十年祭

同分教会二代会長

門田武太郎之霊の十年祭

本理愛分教会では6月9

日午前11時より、初代会

長・門田二三四之霊の三十

年祭、並びに二代会長・門

田武太郎之霊の十年祭が、

同分教会で行われた。

お出直し

田澤秀慈氏(本大王部属・本佐屋分教会二代会長)

5月23日に出直された。

享年70歳。告別式は5月25

日午前9時半より、佐々壽

章・本大王分教会長を齋主

として同分教会にて執り行

われた。

大教会日誌

令和4年5月25日~令和4年6月24日

5月

26日 本部月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

6月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・桑子保、松浦道太郎

指図方・大倉八郎 賛者・坂倉敏男、佐藤幸一郎

◇祭典講話—松浦道太郎

2日 よふき会例会

3日 こはる会例会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、大倉光晴

指図方・安藤正二郎 賛者・出口邦郎、山本治行

◇祭典講話—松谷武一先生(南大教会役員)

◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU(参加者50人)

19日 女子青年例会

ほんあいOKEIKO(参加者36人)

20日 婦人会例会